

第12回「青山歌壇」短歌受賞作品発表

テーマ「鳥」

第12回「青山歌壇」の受賞作品が次のとおり決定いたしました。初等部生から大学生、校友、教職員、学院関係者など1457名の皆様よりご応募いただき、誠にありがとうございました。

最優秀賞

何だろわかいてんずしの入口にわらのポケットあつツバメのす

初等部3年 ■ 平松ひとみ

今年の夏は、ツバメのすをよく見かけました。とくに、逗子の回転ずし屋さんで見た時は、とてもおどろきました。ひなが口をひし形に開けて、えさを待っていたからです。すごくかわいかったです。来年も、ツバメのひなにたくさん出会いたいです。

選者
水上 比呂美

おすしやさんの前で、つばめの巣を見上げている仲よし家族の会話と、つばめのひなの鳴き声が聞こえてきそうです。つばめの巣を「わらのポケット」と言っているところがすてき。

くすのきを背にして飛び立つ若鳥よ輝く居場所見つけておいで

初等部6年 ■ 城島鈴香

校庭のくすのきはいつも、私達を見守ってくれています。そこから飛び立つ若鳥と、卒業をひかえた六年生を想像して詠みました。輝く未来に向けて、みんなで力強く羽ばたいていきたいです。受賞の知らせを聞いて、とても嬉しかったです。ありがとうございました。

選者
林 謙二

初等部をずっと見守ってきた校庭のくすのき。児童たちはくすのきから巣立っていきます。新たな居場所を見つげるために。「見つけておいで」という表現から深い優しさが感じられます。

カナブンを空中捕獲して食べるスズメの速さ見とれてしまう

中等部1年 ■ 佐竹真吾

自分は、五七五や五七五七七のリズムが心地良くて俳句や短歌が好きです。なので受賞することができてうれしです。スズメや、カナブンはとても身近な生き物だったので、書きやすかったのもよかったです。

選者
津金 規雄

地上にいる虫たちはもちろん空中を飛んでいるカナブンを捕まえられるスズメの素早さ、そこに「見とれてしまう」のですから今の自分にはない運動神経の良さへのあこがれもあるのでしょうか。

密林に鳥カラス啼く夏の朝今日はサンゴの海にもぐるよ

中等部3年 ■ 高木美来

最優秀賞をいただきありがとうございます。私が詠んだこの短歌は、夏休みに家族旅行で行った沖縄の事を詠みました。沖縄の夏の暑い朝、東京のカラスとは違う鳥が鳴いていた事がとても印象的で、今でもよく思い出します。

選者
日置 俊次

ジャングルのカラスの声が聞こえ、今日はサンゴの海でダイビングをするのです。南の海に浮かぶ島で、都会にもいるカラスを詠んで、驚きや発見のある色彩の豊かな歌になりました。

改札に向かう娘の背にたたまれし翼大きく大きく開け

保護者 ■ 櫻木さやか

娘たちが離郷した日の後ろ姿を昨日のことに思い出し、夢とともに自分の空に飛び立つことが出来るように願っています。父と母もこんな気持ちだったのかなと、ふと、思いました。

選者
日置 俊次

東京に進学するために旅立つ娘さんを、駅の改札まで見送ったのでしよう。娘さんの背中に鳥のような翼を想像して、彼女が大きく羽ばたくことを願う親の心がよく表現されています。

